

8906 パリのど真ん中に、エッフェル塔が出現したのは、・・・

パリのど真ん中に、エッフェル塔が出現したのは、十九世紀も終わりに近づいた1889年のことであった。

この年はフランス革命の100周年に当り、同年五月から六ヶ月間にわたって開かれたパリ万博は、それを記念した行事でもあっただけに、当時のフランス政府は万博を画期的なものにしたいと並々ならぬ意気込みであった。その壮大な構想の中から生まれたのが、エッフェル塔だった。

石井威望『デュアル思考のすすめ』

#### [許容訳例]

It was in 1889, near the end of the nineteenth century, that the Eiffel Tower first appeared in the middle of Paris.

That year was the centenary of the French Revolution, and the International Exposition held for six months from May to November in the same year was also intended to celebrate it, so that the French government of the time was determined to make the exposition an epoch-making event. The tower came into being as part of such a grand conception.

#### [翻訳例]

It was in 1889, as the nineteenth century was drawing to a close, that the Eiffel Tower put in its appearance in the very heart of Paris. The year in question marked the hundredth anniversary of the French Revolution; the Paris Exposition held for six months beginning in May of the same year was intended in part to celebrate it, and the French Government of the day was correspondingly keen to make the Exposition an epoch-making event. It was as part of this grand scheme that the Eiffel Tower came into being.

■パリのど真ん中に、エッフェル塔が出現したのは、十九世紀も終わりに近づいた1889年のことであった。(8906)

★「～のど真ん中に」は in the middle of ~でもいいですが、「真ん中」は middle よりは center の方がいいような気がします。in the (very) heart of ~とか in the (very) center of ~でしょう。right in the center of ~としてもいいです。

★「エッフェル塔」は the Eiffel Tower です。

★「出現する」は、ここは first appeared とか、put in its [an] appearance という表現を使えばいいでしょう。他に「出現する」は、辞書には come into being [existence] が出ていますが、これは文字通り「生まれる」の意味なので、最後の文章に出てくる「生まれた」に使うといいと思います。なお、emerge を使うと、たとえば、エイリアンが現れたといったような、何か土の中からぬっと頭を出したような感じがします。つまり、「～から姿を現す、

頭を出す」という場合に使う言葉です。あるいは、日本語の「台頭する」という意味にもよく使います。たとえば、The communist movement first emerged.のようになります。ここでは使わない方がいいです。

★「十九世紀も終わりに近づいた」は日本語と同じような表現としては draw to a [its] close とか draw to an end とかを使って as the 19th century was drawing to a [its] close [an end] とか、near を動詞として使って as the nineteenth century was nearing an [its] end のような決まった言い方を使っていいし、near the end of the 19th century と副詞句にしてもいいです。

#### ●It was in 1889 that...と It was 1889 when...の構文

「1889年のことであった」は It was in 1889…となります。It was in ~で始めた場合は that…と続けます。これは It…that…の強調構文として使うのです。ここを It was 1889…で始めるなら when…と続きます。たとえば、It was 1889 when I first met him. とは、The time when [in which] I first met him was 1889. ということになります。間違いやすいので、It was in ~のように前置詞がある場合は that…で、前置詞がなければ when…と覚えておくといいと思います。ただし、既に話題になっていることで、それがいつだったのかを強調するような場合なら、前置詞がなくても、「非標準」ですが that…を使うことができます。

■この年はフランス革命の 100 周年に当り、同年五月から六ヶ月間にわたって開かれたパリ万博は、それを記念した行事でもあっただけに、当時のフランス政府は万博を画期的なものにしたいと並々ならぬ意気込みであった。(8906)

★「この年」は The year だけではちょっと弱いので、That year とするか、あるいは The year in question とするといいです。

★「フランス革命の 100 周年に当たり」は was [marked] the hundredth anniversary of the French Revolution ですが、was centenary of the French Revolution でも構いません。なお、「～に当る」には fall on もありますが、これは、たとえば、The centenary of the French Revolution fell in 1889 なら使えますが、ここでは無理です。

#### ●「当た [り]」(連用形)

この「当た [り]」は、「順次」なので and でいいのですが、ここは後の文章が長いので、セミコロンで続けた方がいいと思います。

★「同年五月から六ヶ月間にわたって」は for six months from May in the same year でも通じますが、英語としては for six months from May to November in the same year とするか、あるいは for six months beginning in May of the same year としたいです。

★「開かれた」は「開く」が「開催する」の意味の場合は hold で、ここでは was held です。was opened ではありません。

★「パリ万博」は the Paris International Exposition です。International を抜かして Paris Exposition もいいでしょう。なお、「万博」の場合は、習慣的に Exhibition ではなく、普通、Exposition を使うと思います。

### ● 「連体修飾節+体言」(同年五月から六ヶ月間にわたって開かれたパリ万博)

「同年五月から六ヶ月間にわたって開かれたパリ万博」は「連体修飾節(同年五月から六ヶ月間にわたって開かれた) + 体言(パリ万博)」ですから、英語では「名詞(the Paris International Exposition) + 関係詞節(that was held for six months beginning in May of the same year)」ですが、that was を取って heldだけが普通です。なお、「開かれる」に be given は使えません。これはパーティーなどに使う表現です。

★「記念した」は celebrate とか commemorate でしょう。「記念した」は辞書では in memory of とか memorial (event) のような例があります。この二つは日本人の書いた英文によく使われていますが、これは亡くなった人の追悼の場合などに使う表現で、ここでは無理です。

### ● 「連体修飾節+体言(それを記念した行事)

「それを記念した行事」は「連体修飾節(それを記念した) + 体言(行事)」ですから、英語では「名詞(an event) + 関係詞節((which was) held in celebration of it) [to celebrate it]」ですが、ここは「～した行事でもあった」ですから「でも」をどう表すかが問題になります。次を参照。

★「～でもあった」は「～であった」に「も」(also)を加えたものともとれます、これだけでは何のことかはっきりしないので was also intended to celebrate it とか、さらに「も」の意味をはっきりさせるために partly か in part を使って was partly intended to…か、was intended in part to…とするといいでしよう。

### ● [だけに]

「だけに」は「そういうわけだから…という状態〔気持ち〕だった」ということで、so あるいは so that を使ってもあらわすことができますが、「だけに」に相当する、いかにも英語らしい表現に correspondingly というのがあります。これは and ~ was correspondingly ~ のように使います、なお、correspondingly の代わりに all the more も使えますが、やはり、普通は correspondingly を使うと思います。

★「当時のフランス政府」は the French government of the time [of the day] です。at the time でも間違いではありませんが、普通はありません。また、辞書には「当時の」に then も出ています。これは故人の場合に使うことが多いのですが、the then French government としてもかまいません。

★「万博を画期的なものにする」は make the exposition an epoch-making event でしょう。

★「…にしたい」は be eager [keen] to…でいいでしょう。keen より eager の方が少し強くなります。

★「並々ならぬ」には with great enthusiasm とか extraordinarily などがあり、使ってもかまいませんが、前に correspondingly を使う場合は、それだけで強調することになりますから必要ないし、eager [keen] を使うと、その意味は含まれてしまいます。

★「意気込みであった」は be determined to か、あるいは、be revolved to; be set on…ing なども使えます。場合によっては「強引に…する」といった悪いニュアンスで使うことも

ありますが be bent on…ing も使えます。be enthusiastic about~は、ここではちょっと無理です。

■その壮大な構想の中から生まれたのが、エッフェル塔だった。 (8906)

★「壮大な」は grand がいいです。

★「構想」は conception でも間違いではありませんが、scheme にした方がいいです。scheme は「企み」というようなちょっと悪いニニアンスで使うこともあります、それと同時に、たとえば、far-sighted scheme; large-scale scheme というように、夢といった感じも入れてよく使われますから、ここにぴったりだと思います。他には plan なら使えますが idea はむしろ瞬間的な思いつきといった感じで、ここには合いません。

★「その～の中から」は as part of this ~です。

★「生まれた」は came into being です。

●強調文構造（情報順にするために）

「その壮大な構想の中から生まれたのが、エッフェル塔だった」は一種の「隠れ連体修飾節」（「その壮大な構想の中から生まれた」 + 「(へも) の」）ですから、英語では「(代) 名詞(something=the tower) + 関係詞節(that came into being as part of this grand scheme)」となり、The Eiffel Tower was the tower that came into being as part of this grand scheme. → The Eiffel Tower came into being as part of this grand scheme. (エッフェル塔はその壮大な構想の中から生まれた) でもいいですが、このままでは「その壮大な構想の中から+生まれたのがエッフェル塔だった」という一種の強調文の日本語の情報順と合いません。それで、英語では It was as part of this grand scheme that the Eiffel Tower came into being. という強調文することで情報順の訳文にすることができます。